

# Perfect BOAT

YACHT CAR TRAVEL WATCH FASHION CUISINE LIFESTYLE

1  
JAN. 2014



## Delta 54

スカンジナビアン・デザイン「デルタ 54」



ベネトゥ BENETEAU GT38 / グランドバンクス GRAND BANKS 43EU

バックコーブ BACK COVE 34 / フォートローダーデール・ポートショー

佐藤由加理のHappy BOATING! / アマゾン「アクア・エクスペディションズ」

# AQUA EXPE

## AMAZON River Amazing Experience

### 5つ星クルーズシップ

### 「アクア・エクスペディションズ」で旅するアマゾン川

「アマゾン」。その響きに、誰もが冒険心を掻き立てられる。ペルー北部にある源流から、1,000を超える支流が合流しながら大西洋へと注ぐ、全長約7,000kmに及ぶアマゾン川流域は、世界最大の熱帯雨林を誇る南米の秘境だ。ペルーと聞くとマチュピチュやアンデスのイメージが強いが、実は国土の60%はアマゾンの熱帯性密林が占めている。鬱蒼とした熱帯雨林が広がる手付かずの自然と生き物たちの聖域へ、一生に1度は訪れたいと思うものの、高温多湿のジャングルという過酷な自然環境では、衛生面や食べ物が気にかかる。しかし5つ星ホテル並の設備とサービスが整った船であれば話は別だ。そんな究極のパカンスを実現させたのが、この「アクア・エクスペディションズ」である。

text: Hiromi Suzuki

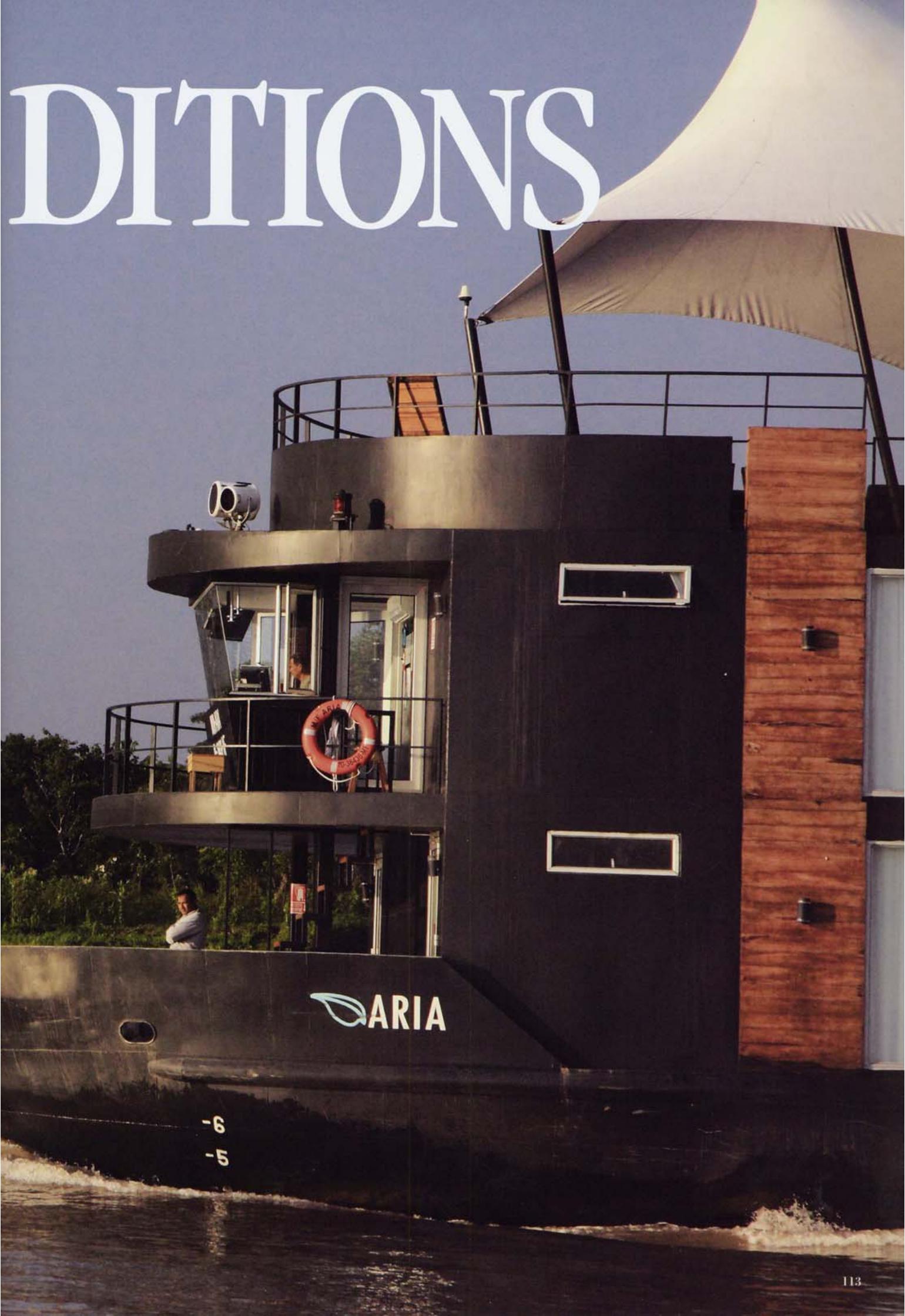
photo: Ryoichi Sato

special thanks: PROMPERU ペルー政府観光庁

<http://www.peru.travel>



# DITIONS





## ラグジュアリー船に乗って プリミティブな世界へ

ペルーの首都リマから空路で北へ約2時間、アンデス山脈を越えてアマゾンの玄関口となる街イキトス空港に降り立つ。セーターやダウンジャケットを着込んだ人々が行き交うリマとは一転、熱を帯びた湿気がじんわりと肌にまとわりつく。空港にはすでに「アクア・エクスペディションズ」のスタッフがゲストの到着を待っていた。イキトスは「陸路では行けない世界最大の街」ともいわれている。それだけでも十分に秘境感はあるというのに、ここからさらに

専用車で1.5時間ほど走らせ船が待つ埠頭へと向かう。日もどっぷりと暮れ、車窓から見えるのは月明かりにさらされた椰子の木ばかり。ここはジャングルの只中なのだとことを実感する。

栈橋には4日間を過ごすクルーズ船「ARIA」が我々の到着を待っていた。マットな黒と磨かれたチーク材のボディは、デザインホテルと見まがう流麗な外観が際立っている。「ARIA」は、初代「AQUA」を一回り大きくした2船目として、1年の歳月をかけて建造。2011年より世界中のセレブリティを原始の地へと導いている。

全長45mに客室はわずか16室。22㎡の上質な客室は「船上の5つ星ホテル」の冠に値する居心地の良さだ。ふかふかのタオ



鬱蒼と生い茂るジャングルの中を悠々と進む「ARIA」。わずか32名のゲストのために用意された施設と設備は、アマゾン川をクルーズしていることを忘れてしまいそうなくらい「極楽」。

ルと、もちろんエアコンやバスルームを完備。熱いシャワーを24時間いつでも浴びられる。飲料水は1階デッキに設置されているウォーターサーバーを利用。部屋にはロゴ入りオリジナルの給水ボトルも用意され、旅の記念に持ち帰りもOK。それに加えて、全面ガラス張りのピクチャーウィンドウからは、アマゾン川のエキゾチックな景色が流れて行く。社交エリアにはガラス張りの開放感に溢れるダイニングルーム、ライブラリーを兼ねたラウンジバー、心地よい風に包まれる展望デッキ、センスの良いブティック、屋外ジャグジーやフィットネスルームも備わる。安全面では、米国コーストガード (USCG) 認証衛生システム、AEDを搭載。水上警察官

や救急介護士を含む28名のクルーが、32名のゲストを万全の体制でサポート。最高の旅となるための準備に余念がない。

ウェルカムディナーを終える頃には、リラックスしたムードの中、それぞれ自己紹介を兼ねた挨拶を交わしている。ロンドンから来た夫妻は、ご主人はロンドンマラソンの関係者。東京マラソンにも毎年、関係者として来日しているとのこと。ちなみにご夫人はトライアスリートで、過去いくつものレースに参加しているそうだ。スイスからの穏やかな老夫婦は、ご主人は大のボート好きで、自らも所有するクルーズ旅の達人。ブラジルのアマゾン川クルーズをすでに経験済みだ。アメリカ西海岸に住む一家は、ただ今年をかけ

で世界旅行中。3人の子供たちはネット学校でオンライン教育を受けているとのこと。その他、オーストラリア、スペイン、アルメニア、地元ペルー、日本と、世界各地から集まった総勢26名を乗せて、船は夜のアマゾン川を静かに走る。明日目覚めの景色に想いを馳せて、就寝前にアッパーデッキのラウンジバーでペルー名物の酒、ピスコサワーを1杯。アマゾンの夜空に輝く満天の星空と南十字星に乾杯!

朝6時。展望デッキのソファに腰をおろして、早朝の爽やかな風を受けていると、背後から深紅色の太陽がアマゾン川の彼方から顔を出した。空も川も漁師も赤く染まり、これまで見たこともないような大きな太陽が昇ってきた。アマゾン川が朝日に染まった一瞬の出来事だった。

これからが冒険の本番だ。曳航する4艘の10人乗りテンドーボートに乗り、専任ガイドと共にアマゾンの奥地へと探検にでる。そこではピラニア釣りや野鳥、モンキー探しなど、たくさんのエクスカッションが待っている。ナマケモノを探してボートを走らせていると、ピンクイルカ(正式名はアマゾンカワイルカ)に遭遇した。写真を撮ろうとする我々をからかうかのように、数頭のイルカが前後左右に川面から体を見せては消えるを繰り返す。「ピンクイルカの個体数は毎年1割ほど減少しています。昔はマナティもいましたが、今は姿を見ることはありません。我々は、イキトスにあるマナティ保護センターのサポートや、クルーズの途中で訪問する小さな村々に医薬品や日用品などを届けたり、寄付活動も行っています。少しでもアマゾンに恩返しができるれば本望です」ネイチャーガイド



ネイチャーガイドとともに繰り出すジャングルツアーで見られる生物は数知れず。動物園やTVでしか見たことのない野生動物の愛嬌たっぷりの仕草に、毎日が興奮と癒しの連続。





冒険クルーズの幕開けを告げるようにアマゾン川を朱色に染めるゴージャスな日の出にただただ圧倒。アマゾン川クルーズは朝から晩までドラマチックな景色を見せつけてくれる。

ドのジョージは語っていた。

ボートは正午にARIAへと戻ると、クルーたちが冷たいタオルとアマゾン原産の奇跡のフルーツ「カムカム」のフレッシュジュースで出迎えてくれた。ランチを済ませたら夕方のエクスカーションまで一休み。デッキに横たわり読書したり、雄大な景色を眺めながらジャグジーでリラックスしたり、上質な時間が流れてゆく。船内ではガイドによるアマゾンに生息する動植物のレクチャーなども開催されている。

午後は、島に上陸してジャングルウォークだ。アマゾン川には多くの支流があり、水面が5～6mも上昇する雨季には、島や村の一部も水没するという。水分を含んだ落ち葉が積もる道を歩きながら、ガイドが草むらから真っ赤な皮膚を持つヤドクガエルやタランチュラなどの珍虫を捕まえて見せてくれる。樹齢100年を超える20mはありそうなバンヤンツリーの気根にぶら下がって、いい大人がターザンになりきる。日が暮れて、ジャングルに奇妙な鳴き声が響く頃、再びワニなどの夜行生物を探しに出勤する。星と蛍だけが輝く夜の世界は、美しくもあり、同時に怖くもある。青空の下で見たジャングルとは全く違う表情をしていた。

アマゾン川で過ごす4日間は驚きと感動に満ち溢れている。直径2mはあるオオオニバスの群生、4本足と尾で枝に掴まり、器用にアマゾン川で喉を潤すクモザルの姿、紺碧の空に羽ばたくミドリインコの群れ。そして最終日の最後のアクティビティは、4艘のボートが集まりアマゾン川にみんなで飛び込む。その後は黄金色を放ちながらアマゾン川に沈む夕日と、旅を共にした冒険者たちにシャンパンで乾杯。ここには太古の地球の姿と世界のどこにもない遊びがある。





10ノットで威風堂々と優雅に進むARIA。デッキで受ける乾季のアマゾン川を渡る風は、熱帯雨林にも関わらずサラッとしていて心地よい。クルーズのコースは3泊、4泊、7泊。また、雨季(12~5月)、乾季(6~11月)でも内容が異なる。

## 美食家たちを魅了する スペシャルな料理を船上で

アドベンチャー・クルーズに華を添える、スターシェフが監修する料理の数々も見逃せない。ゲストの舌をうならせるのは、ペルーの美食ブームに一役買った、ペドロ・ミゲル・スキアフィーノ。サンペリグリオ世界ベスト100レストランアワードに選出されたリマのレストラン「Malabar」のカリスマシェフである。世界的に知られるレストラン「NOBU」のオーナーシェフ、ノブ・マツヒサ氏も絶賛する人物だ。

アマゾンのジャングルで採れる新鮮な食材を使用して、ペルーの伝統的な調理法にフレンチ、イタリアン、中華、和食などのエッセンスをしたためた、繊細かつ大胆なフュージョン料理は毎日が

驚きの連続。「アマゾン川を知るには、まずは土地のもの食べることでしょう。それゆえに、葉ものなど一部の野菜を除き食材は地ものにこだわり、アイスクリーム以外の全ての料理を船内で作ります。ここは大なる食の宝庫だということを、ゲストの皆様にも知っていただけるように努めています」と、キッチン責任者ラファエルは話していた。おかげで、ジャングルの奥地にいながら、朝から焼き立てのパンをいただける。スターターからメイン、デザートに至るまで、隙のない目にも鮮やかなコースディナーは、エクスカッションから戻った後の最大の楽しみとなった。

### DATA

#### AQUA EXPEDITIONS

<http://aquaexpeditions.com>

#### [ARIA号]

7泊 2階デッキスイート \$7,350 / 1階デッキスイート \$7,000  
4泊 2階デッキスイート \$4,200 / 1階デッキスイート \$4,000  
3泊 2階デッキスイート \$3,150 / 1階デッキスイート \$3,000

#### [AQUA号]

7泊 マスタースイート \$7,000 / スイート \$6,650  
4泊 マスタースイート \$4,000 / スイート \$3,800  
3泊 マスタースイート \$3,000 / スイート \$2,850  
(※ 2名1室使用時の1名料金)

#### ■予約、問い合わせ

インターナショナル・クルーズ・マーケティング (ICM)  
TEL: 03-5405-9213 <http://www.icmjapan.co.jp>



4名のキッチンスタッフは朝食からランチビュッフェ、コースディナーと一日中手を休めることなくゲストのために料理を作り続ける。左から、グリルしたパイチェ(ピラルクー)とエビのスパイシー煮込み、朝食の注文を受けてから作るエッグベネディクト、アマゾン原産のフルーツ「マカンボ」のクリームブリュレ。どれも素晴らしい。